

特集1 ふるさと港南

港南区は昔、東と西で違う「国」だった! 武相国境

皆さんが住む港南区は神奈川県横浜市に属している、ということは誰でも知っていると思います。では、明治時代より昔、「都道府県」ではなく「旧国名」で呼ばれていた時代、現在の港南区は何という「国」だったでしょう?

実はかつて、区の東側は「武蔵国」、西側は「相模国」でした。市内18区の中でも区の中央部に武蔵と相模の国境「武相国境」があるのは港南区だけ。現在の生活では「武相国境」を意識することはほとんど無いと思いますが、自分たちの住む街の歴史、知っておくのもいいのではないのでしょうか。



迎陽トンネル:日野南4丁目と野庭町を結ぶ延長42メートルのトンネル。武相国境はこの上を横切り、南側にある野庭表町公園付近を通っています。明治時代後期に地元の村民などが掘ったものですが、昭和53年に現在の形で完成しました。

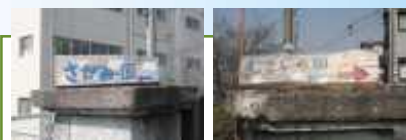


野庭表町公園

港南区内では東京湾へ注ぐ日野川・笹下川・大岡川などの河川と、相模湾へ注ぐ芹谷川・馬洗川・平戸永谷川などの河川の分水嶺が武相国境です。区内の相模国側は「相模国鎌倉郡」に、武蔵国側は「武蔵国久良岐郡」に属していました。久良岐郡の郡役所は現在の笹下2-22付近(東樹院の近く)にあり、久良岐郡が横浜市に編入される前、明治・大正時代にはここが久良岐郡の行政上の中心地でした。



武相国境を示す道標(芹が谷1-15、南区との区境付近)。この地域では港南区・南区の区境が武相国境です



下永谷小学校の校門にある国境表示。下永谷小学校を卒業した児童がつくったものです。東永谷地区と大久保地区の境界付近がかつての武相国境です。

武相国境は環状2号線にあるバス停「永作」付近を通っています。今年1月31日、この場所に、区とNPO法人が協働で「安全緑地見本園」を設置しました。

安全緑地見本園とは

子どもや高齢者の安全な通行と、道路沿いの緑化の推進を目的としたスペース。交差点付近の植え込みの高さを低くしたり、街路樹を剪定したりすることで見通しをよくしています。また、地域の人たちの交流スポットとなるようベンチも設置しています。NPO法人日本公開庭園機構、NPO法人横浜・櫻守、県立鶴見高等職業技術校の皆さんの協力のもと、完成させることができました。

鎌倉街道にあるバス停「七曲」付近から円海山にかけて、武相国境は現在の港南区・栄区の区境とおおむね一致します

参考文献:市教育委員会「横浜の古道(平成2年改訂版)」、港南の歴史発行実行委員会「港南の歴史(昭和54年)」、港南区役所「こうなん 道ばたの風土記(平成11年改訂版)」